

## 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

### 1. 学校概要

学校名 広島市立大林小学校 (※正式名称を記載)  
種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☒ 小学校 ☐ 小中一貫<sup>※注 1</sup>  
☐ 中学校 ☐ 中高一貫<sup>※注 2</sup> ☐ 高等学校  
☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校  
☐ 特別支援学校  
☐ その他（例：小中高一貫）  
※注 1 義務教育学校を含む ※注 2 中等教育学校を含む  
所在地 〒731-0221  
広島市安佐北区大林四丁目 1 4 番 1 号  
E-mail [oobayasi@e.city.hiroshima.jp](mailto:oobayasi@e.city.hiroshima.jp)  
Website <http://www.ohbayashi-e.edu.city.hiroshima.jp>  
幼児児童生徒数 男子 34 名 女子 41 名 合計 75 名  
幼児・児童・生徒の年齢 6 歳～12 歳

### 2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

### 3. 活動内容

#### (1) 活動の概要

本校は、本学習活動を「ホタルプロジェクト」と名付け、生活科や総合的な学習の時間を中心に、理科や社会科など教科横断的な学習計画を行い、ESD の取組として学習活動を行っている。地域の自然保護に関わる学びを中心課題として取り組みながら、地域社会と連携を図り、全ての児童が郷土を愛し文化や伝統を継承しながら、地域と結びついた幸福で豊かな社会を築く力を育むことを目標として取り組んでいる。

このようにして育まれた資質・能力は、地域社会を支えると共に、ひいては社会全体につながり、よりより人々の暮らしへと広がると考える。したがって、この取組の根底には ESD の考え方が深く流れている。

平成 22 年より改善をはかりながら、本校は実践を重ねてきた。具体的には、①ホタル（幼虫）の飼育及び放流活動、②地域の自然環境保護活動、合わせて③地域の人々の暮らしと自然に関する活動 ④地域の歴史や産業と史跡文化を理解する活動を中心に学習活動を行った。当然のことながら、これらの学習活動は相互に関連している。

#### ①ホタル（幼虫）の飼育及び放流活動

「ホタルがいっぱいになる大林地域にしたい。」という児童の願いを中心に学習活動が展開された。これまで、学習の繰り返しである程度のサイクルができあ

がっている。ホタルの成虫の観察。採卵・孵化した幼虫の飼育、そして、幼虫の放流と1年間を通した活動となっている。

6月の第1土曜日に「ホタルのタベ」と題した会を開催し、ホタルに関する学びや関連したものの製作、準備を行い、会では保護者、地域の方を招いて取組を発表した。

## ②地域の自然環境保護活動

「ホタルプロジェクト」の学びが次第に大林地域の自然環境理解と保全等に広がりを持ち具体的な学習活動として、大林連合自治会や太田川漁協の協力を得て、アユの稚魚を全児童で根の谷川へ放流した。地元を流れる清流が豊かな恵みをもたらすことを願ったり、そのために自分たちができることを考え実践したりする学習活動となった。

## ③地域の人々の暮らしと自然に関する活動

平成26年8月20日未明に起きた広島土砂災害の被災地にある本校は、オリジナルストーリーで絵本の制作を行った。それをもとに6年生が大型紙芝居にしている。この作品を活用して、入学してきた1年生に読み聞かせを行った。大林小学校で、どんな取り組みをしているのかや大林地域で起きた災害の伝承と共に、ホタルや自然を大切にしていかなければならないことを1年生に伝えることを継続的に行っている。

## ④地域の歴史や産業と史跡文化を理解する活動

地域の農作物栽培として地域の方と共にコンニャク栽培からコンニャクづくりを行った。また、ゲストティーチャーとしてお招きした地域の方々との交流を通して、地域で育つ喜びや有用感を感じる取り組みとなった。

地域の方々と交えたもちつき大会では、大鍋で作られる豚汁の材料として6年生が作ったコンニャクを使い、全校児童と共に保護者、地域の方々にふるまわれた。児童が作ったコンニャク入りの豚汁は、地域の方々や保護者にたいへん好評であった。そのほか、地域の史跡を巡る学びを地域の方を招いて行った。

### ①ホタル幼虫の放流会



### ③自作紙芝居の読み聞かせ



### ②アユ稚魚の放流活動



### ④コンニャクイモの植え付け

